

式 辞

春の風が、花の香りや鳥のさえずりを運んでくれる今日の佳き日に、御来賓の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、令和8年度京都府立綾部高等学校入学式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。心より厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。

綾部高校の教職員一同、在校生一同、皆さんのご入学を心よりお祝い申し上げます。

綾部高校は、明治26年の創立以来、地域とともに歩み続けてきました。卒業生は4万人を超え、多くの方が各界で活躍しておられます。新入生の皆さんには、本校で学ぶことに誇りを持ち、その歴史と伝統をさらに発展させてくれることを期待しています。

さて、今日から皆さんは、この学校の一員として高校生活をスタートさせます。新しい環境、新しい仲間、そしてこれから出会う新しい自分。今は期待と少しの緊張が入り混じった気持ちかもしれません。正解が一つではない時代を生きる皆さんにとって、最も大切なことは何か。私は、それは「挑戦」であると考えています。Challenge（挑戦）した人には、必ずChange（変化）が生まれ、その先にChance（機会）が訪れます。これは偶然ではありません。自ら一步を踏み出した人にこそ、次の道が開かれていくものです。そのうえで、ぜひ心に留めてほしいことがあります。それは、最初からうまくいく必要はない、ということです。むしろ、うまくいかない経験や遠回りと思える経験の中にこそ、本当の学びと成長があります。現代社会は、さまざまな技術の発展により、効率よく答えにたどり着ける時代ともいえます。しかし一方で、迷うことや遠回りをするものの価値が見えにくくなっているのかもしれません。遠回りをしたからこそ見える景色があり、立ち止まったからこそ気づくことがあります。

本校の校是である「探真究理」についてお話しします。「探真究理」には、自分で考え抜く姿勢を大切にしてほしいという願いが込められています。そのために、皆さんに大切にしてほしいことがあります。それは――自分で見て、自分で感じ、自分の頭で考え、自分の言葉で語ることです。人はつい、誰かの意見や、すでにある答えに頼ってしまいがちです。しかし、それだけでは本当の意味での理解には至りません。自分で見て、感じ、考え、言葉にする。その積み重ねによって得られる「納得感」こそが、正解が一つではない時代を生きるうえでの確かな軸となります。情報があふれ、変化の激しい社会においては、何を信じ、どのように判断し、どう行動するのか――そのすべてを、誰かに委ねることはできません。だからこそ、これからの時代に求められるのは、自ら問いを立て、考え、判断し、行動する力です。

「探真究理」とは、知識を増やすことではなく、自分の生き方をつくっていく営み、そのものです。これから皆さんが出会う学びは、教室の中だけにとどまりません。授業、実習、探究活動、部活動、学校行事、地域との関わり――そのすべてが、皆さんを成長させる大切な機会です。そして、その過程の中で、自分で考え、行動したからこそ得られる成長を、実感してほしいと思います。最初の一步は、小さくて構いません。道とは、自ら問い、考え、歩み続ける中で形づくられていく

ものです。ただ一つ、大切なことがあります。心配なとき、不安なときは、立ち止まり、考えること。そして、また一步を踏み出すこと。それが、成長と進化への道です。

皆さんのすぐそばには、支えてくれる仲間と綾部高校の教職員がいます。本校は、一人ひとりを大切に、チームとして支える学校でありたいと考えています。困ったときには遠慮せず頼ってください。そして、仲間のことも、ぜひ支えてあげてください。

「踏み出せば、その一步が道となる」どんな未来も、最初の一步から始まります。皆さん一人ひとりが、自分の可能性を信じ、挑戦し続ける高校生活となることを心から願っています。新入生の皆さんのこれからの歩みが、希望に満ちた素晴らしいものとなることを祈念し、式辞といたします。

令和八年 四月 九日
京都府立綾部高等学校
校長 一井 育